# 4. 誰が中学受験をするか

（南山短期大学　樋田　大二郎）

## この章の要約

1. すでに見てきたように、中学受験志向の親たちは、大学進学に有利である、学校が荒れていない、校風が良いなど、よりよい教育環境を与えるために、子どもたちを私立や国立の中学に入れようとしている。

2. この章では、それでは一体どのような親たちが、中学受験志向が強いのか、両親の社会＝経済的地位や学歴、教育要求、及び小学生自身の性や学力に焦点をあて、このことを調べた。

3. ①暮らし向きが上位、②父親の職業が専門・技術、管理や自営商工業、③母親が専業主婦、④父母が中・高一貫や中・高・大一貫の教育を受けている、⑤大学（大学院）卒、⑥住まいが持ち家、などの社会＝経済的地位や教育歴の高い家庭で中学受験希望率が高くなっている。これらの要素は、小学生の努力や才能では変えられないものであり、その意味ではどの家に生まれたかで、子どもの人生は大きく枠付けられるといってもよいだろう。

4. しかし、同時に小学生の努力や才能の結果である、①学業成績と中学受験希望率との相関も非常に高い。また、②母親が子に希望する進学段階や大学のタイプ、さらには、③母親の教育観と中学受験希望率の相関も高い。これらのことから、当人の努力や才能、母親の気持ちなどの“家柄”以外の要因も子どもの人生を大きく枠付けていることがわかる。

5. 以上のことから、今回調査した学校では、成績のよい子や母親の教育要求の高い家庭の子、社会＝経済的地位の高い家庭の子、親の教育歴の高い家庭の子ほど中学受験をすることがわかった。

## 1．暮らし向きと中学受験

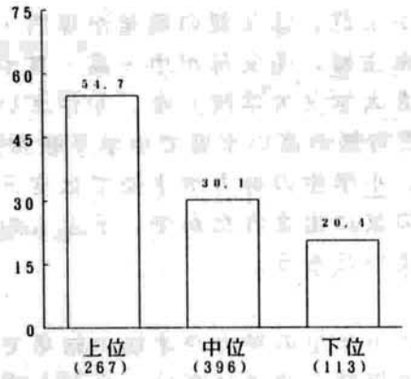
当人の努力の及ばない要因、たとえば生まれた地域、家柄・家の経済力、男女の別、出生順位などの要因でその人のライフ・コースが決められて行くことを属性原理が働くと言う。その反対は、当人の意志の力や努力でライフ・コースがどんどん開かれていくことで、業績原理が働くと言う。例えば江戸時代の身分社会では属性原理が強く働き、戦後の社会では業績原理が比較的強く働いているといえる。業績原理が支配的な社会では、機会の平等が保障され、人は誰でも努力次第で、地位や収入、社会的評価を手に入れることができる。

ところで、中学受験では属性原理や業績原理はそれぞれどのくらい強く働いているのであろうか。この章では、中学受験と属性原理、業績原理の問題について考えてみたい。

まずは属性原理とかかわりの深い要因と中学受験との関係から見てみよう。

図４－１は、暮らし向き別に母親が中学受験を希望している割合を見たものである。これを見ると、「上位」では54.7%が希望しているのに対して、「中位」では30.1%、「下位」では、20.4%しか希望していない。暮らし向きと中学受験との間には非常に強い相関があると言える。９割以上の人が受ける高校受験とは異なり、中学受験は特定の階層の人に受験者の偏りが見られるわけである。中学受験者が増加した「新受験時代」は、江戸時代と同じように、属性原理が強く働く社会なのであろうか。

＜図４－１＞　暮らし向き別に見た中学受験希望率（%）




（注）受験希望率は、母親の希望をもとに、未定と答えた母親は入れず、「受験させるつもりである」と答えた母親のみの割合を示している。なお、（　）内の実数は不明・無回答を除いた数値である。（以降の図表もすべて同じ）

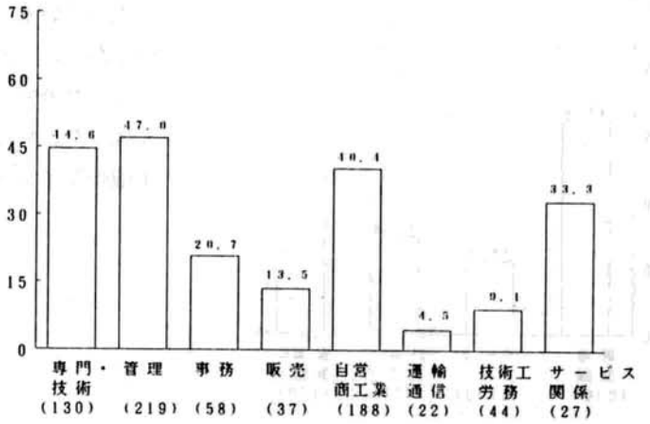


## 2．父親の職業と中学受験

父親の職業も属性原理とかかわりが深い要因である。

図４－２を見ると「専門・技術」、「管理」、「自営商工業」などでは中学受験希望率が高く、「販売」「運輸通信」、「技術工・労務」などでは低い。さらに表４－１で、暮らし向きをコントロール（つまり職業ごとの暮らし向きの偏りの影響をなくした上で）して、父親の職業と中学受験希望率との関係を見ても、なお職種ごとの大きな差異が残った。ここでも属性原理が強く働いていることがわかる。すなわち、中学受験は暮らし向きだけでなく、父親の職業がどのようなものであるかによっても規定されているわけである。

＜図４－２＞　父親職業別に見た中学受験希望率（%）




＜表４－１＞　暮らし向きと父親職業ごとに見た中学受験希望率（%）

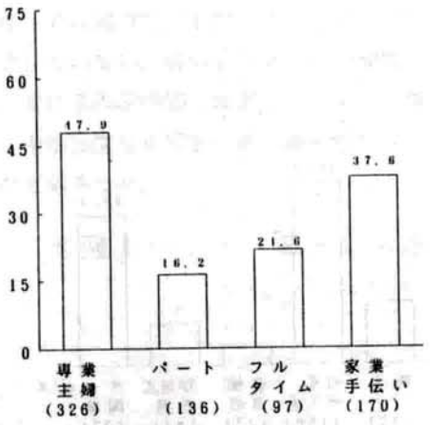
| | 1．受験する | 2．まだ決めていない | 3．受験しない |
|---|---|---|---|
| (1)上位・専門、技術、管理（138） | 60.9 | 9.4 | 29.7 |
| (2)上位・事務、販売（17） | 47.1 | 5.9 | 47.1 |
| (3)上位・自営商工業（71） | 56.3 | 5.6 | 38.0 |
| (4)上位・労務、サービス等（14） | 14.3 | 14.3 | 71.4 |
| (5)中位・専門、技術、管理（162） | 38.9 | 6.8 | 53.1 |
| (6)中位・事務、販売（51） | 9.8 | 3.9 | 84.3 |
| (7)中位・自営商工業（93） | 37.6 | 12.9 | 47.3 |
| (8)中位・労務、サービス等（55） | 14.5 | 7.3 | 78.2 |
| (9)下位・専門、技術、管理（43） | 30.2 | 4.7 | 65.1 |
| (10)下位・事務、販売（22） | 18.2 | 9.1 | 68.2 |
| (11)下位・自営商工業（14） | 7.1 | 0.0 | 92.9 |
| (12)下位・労務、サービス等（19） | 21.1 | 0.0 | 78.9 |

## 3．母親の職業と中学受験

母親の職業については、職業の有無と中学受験希望率との相関を見てみた。「専業主婦」が47.9%と高く、「パート」は16.2%、「フルタイム」も21.6%と低かった。“新受験ママ”は専業主婦の1つのライフ・スタイルなのかもしれない。

なお、専業主婦たちに受験希望率が高いのは「専業主婦だから」という理由ではなく、「専業主婦というのは暮らし向きが上位の人たちだから受験希望率が高いのだ」という説明図式、すなわち「専業主婦→暮らし向きが上位→受験する」という図式が成り立つかどうか、父親職業の時と同じように表4－2のように暮らし向きでコントロールしてみた。その結果は、例えば同じ暮らし向き「上位」の中でもやはり「専業主婦（59.9%）」のほうが「働いている（29.4%）」よりも受験希望率が高いなど、暮らし向きをコントロールした後でも、母親の職業の影響は強く残った。やはり「新受験ママ」は専業主婦のライフスタイルなのであろうか。

＜図4－3＞　母親職業別に見た中学生受験希望率（%）




＜表4－2＞　暮らし向きと母親職業ごとに見た中学受験希望率（%）

| | 1．受験する | 2．まだ決めていない | 3．受験しない |
|---|---|---|---|
| (1)上位・専業主婦（147） | 59.9 | 8.8 | 31.3 |
| (2)上位・働いている（34） | 29.4 | 14.7 | 55.9 |
| (3)上位・家業手伝い（59） | 54.2 | 3.4 | 42.4 |
| (4)中位・専業主婦（143） | 41.3 | 7.7 | 50.3 |
| (5)中位・働いている（129） | 18.6 | 3.1 | 74.4 |
| (6)中位・家業手伝い（88） | 33.0 | 15.9 | 48.9 |
| (7)下位・専業主婦（28） | 28.6 | 7.1 | 64.3 |
| (8)下位・働いている（50） | 18.0 | 6.0 | 74.0 |
| (9)下位・家業手伝い（15） | 20.0 | 0.0 | 80.0 |

（注）「働いている」は「パート」と「フルタイム」を合計した。



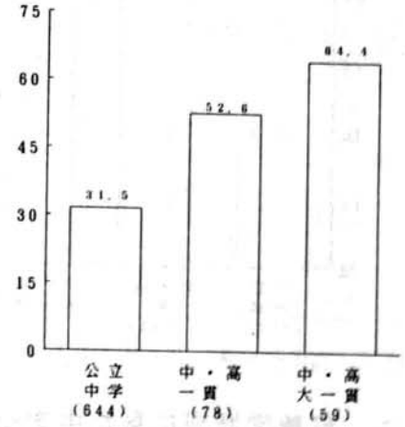
## 4．父親の学校歴・学歴と中学受験

図4－4を見ると、父親が公立中学出身の家庭では31.5%が中学受験を希望している。これに対して、サンプル数は少ないが、中・高一貫の出身では52.6%、中・高・大一貫だと64.4%が中学受験を希望している。

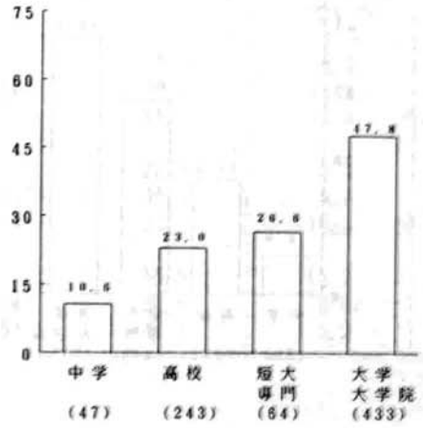
図4－5は、父親の学歴と中学受験の相関を見たものである。学歴が高くなるほど受験希望率が高くなっている。

「父母の職業」や「暮らし向き」といった要因の他にも、父親の学校歴や学歴という属性によって、中学受験をするか否かが大きく影響を受けている。言いかえるならば、教育歴の再生産（親から子どもへの教育上の地位の伝達）がなされているといえよう。

＜図4－4＞　父親出身中学別に見た中学受験希望率（%）




＜図4－5＞　父親学歴別に見た中学受験希望率（%）

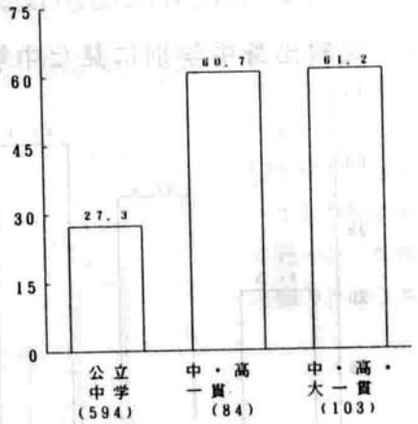


## 5．母親の学校歴・学歴と中学受験（1）

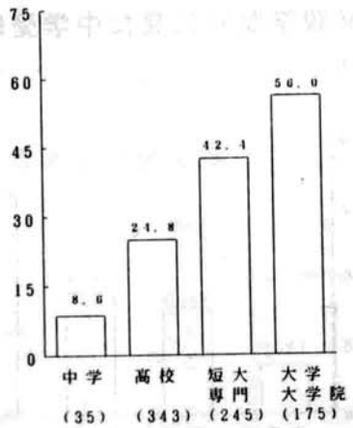
図4－6で、母親の出身中学を見ると、公立中学出身者の受験希望率は27.3%なのに対して、中・高一貫が60.7%、中・高・大一貫では61.2%が中学受験を希望している。

次に、図4－7には母親の学歴ごとの中学受験希望率を示しているが、中卒は 8.6%、高卒も24.8%と低いのに対して、短大・専門学校で42.4%、大学・大学院では56.0%と高くなっている。母親の学校歴・学歴ごとの差異も大きい。母親についても教育歴の再生産がなされている。

＜図4－6＞　母親出身中学別に見た中学受験希望率（%）




＜図4－7＞　母親学歴別に見た中学受験希望率（%）






## 6．母親の学校歴・学歴と中学受験（2）

また、表4－3と表4－4は、「一貫教育出身者のほうが暮らし向きが良い割合が高く、だから、一貫教育出身者の家庭で、中学受験希望率が高いのであって、一貫教育か公立かはそれ自体影響力が無いのではないか」という可能性を確かめるために、暮らし向きでコントロールをして、母親の学校歴や学歴の影響力を見たものである。結果は、暮らし向きでコントロールした後でも母親の学校歴や学歴の影響力が強いことを示している。すなわち、一貫教育出身者や高学歴所持者は、サンプル数が少ない場合を除き、いずれの階層の暮らし向きにおいても、公立中学出身者や高学歴を所持しない者よりも中学受験希望者が多い。

＜表4－3＞　暮らし向きと母親学校歴別に見た中学受験希望率（%）

| | 1．受験する | 2．まだ決めていない | 3．受験しない |
|---|---|---|---|
| (1)上位・公立中学（171） | 45.0 | 8.8 | 46.2 |
| (2)上位・一貫教育（88） | 69.3 | 7.9 | 22.7 |
| (3)中位・公立中学（305） | 21.6 | 7.2 | 69.5 |
| (4)中位・一貫教育（83） | 59.0 | 13.2 | 26.5 |
| (5)下位・公立中学（99） | 19.2 | 5.1 | 74.7 |
| (6)下位・一貫教育（10） | 20.0 | 0.0 | 80.0 |

（注）一貫教育は中・高一貫と中・高・大一貫とを合計した割合

＜表4－4＞暮らし向きと母親学歴別に見た中学受験希望率（%）

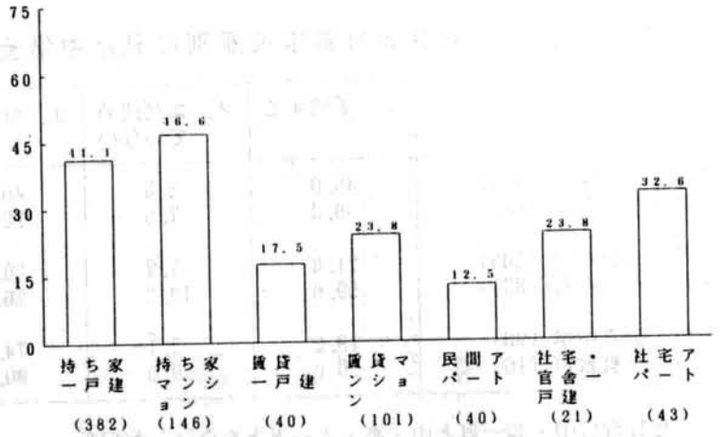
| | 1．受験する | 2．まだ決めていない | 3．受験しない |
|---|---|---|---|
| (1)上位・高校（84） | 39.3 | 9.5 | 51.2 |
| (2)上位・短大、専門（90） | 55.6 | 12.2 | 32.2 |
| (3)上位・大学（院）（87） | 71.3 | 3.4 | 25.3 |
| (4)中位・高校（191） | 22.5 | 8.4 | 67.0 |
| (5)中位・短大、専門（121） | 39.7 | 9.1 | 49.6 |
| (6)中位・大学（院）（66） | 40.9 | 10.6 | 48.5 |
| (7)下位・高校（58） | 15.5 | 5.2 | 77.6 |
| (8)下位・短大、専門（24） | 20.8 | 0.0 | 79.2 |
| (9)下位・大学（院）（19） | 42.1 | 5.3 | 52.6 |

## 7．住まいと中学受験

首都圏での土地価格の高騰にともなって、ニュー・リッチ、ニュー・プアーという言葉も生まれたように、土地を所有するか否かで、生活の質が変わってくるとされている。今回の調査では、図4－8にあるように、住宅が持ち家か賃貸かで中学受験希望率に歴然とした差異があった。

この差異は、表4－5が示すように暮らし向きでコントロールした後にも残った。

＜図4－8＞　住居形態別に見た中学受験希望率（%）




＜表4－5＞　暮らし向きと住居形態別に見た中学受験希望率（%）

| | 1．受験する | 2．まだ決めていない | 3．受験しない |
|---|---|---|---|
| (1)上位・持ち家（205） | 58.5 | 7.8 | 33.7 |
| (2)上位・賃貸（38） | 39.5 | 7.9 | 52.6 |
| (3)上位・社宅（16） | 37.5 | 18.8 | 43.8 |
| (4)中位・持ち家（258） | 35.3 | 7.4 | 55.8 |
| (5)中位・賃貸（96） | 16.7 | 10.4 | 70.8 |
| (6)中位・社宅（35） | 31.4 | 8.6 | 60.0 |
| (7)下位・持ち家（52） | 23.1 | 3.8 | 71.2 |
| (8)下位・賃貸（42） | 16.7 | 4.8 | 78.6 |
| (9)下位・社宅（6） | 15.4 | 0.0 | 84.6 |

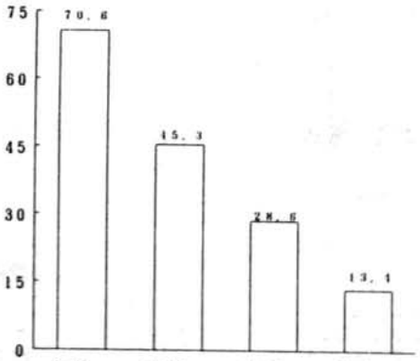


## 8．成績と中学受験

成績や進学希望などの業績原理に目を転じてみよう。ここまで、親の職業、学校歴・学歴、暮らし向きなどの属性原理によって中学受験をするかしないかが大きく規定されるのを見て来た。このような中で業績原理はどのように働いているのだろうか。それとも業績原理は働かず、属性原理だけが働いて、新受験時代――中学受験の時代は、かっての身分社会のような社会になっているのだろうか。

結論を先取りして述べるなら、「新受験時代は、身分社会のようにはなっていない」。図4-9にあるように、成績別の受験希望率の違いは大きい。成績上位者の母親では、なんと70.6%もが受験をさせようと考えているのに対して、中の上位者の母親では45.3%、中の下位者の母親では28.6%、そして下位者の母親では13.4%しか受験させようと考えていない。

＜図4－9＞　成績別に見た中学受験希望率（%）




また、暮らし向きが子どもの成績に与える影響を取り除くため、暮らし向きでコントロールして成績と中学受験希望率を調べた結果が表4－6である。ここでも、コントロール後もなお、成績と受験希望との間に強い相関が見られた。中学受験をするか否かについては、小学生本人の能力や努力の結果である成績が大きくものを言っていることがわかる。

＜表4－6＞　暮らし向きと成績別に見た中学受験希望率（%）

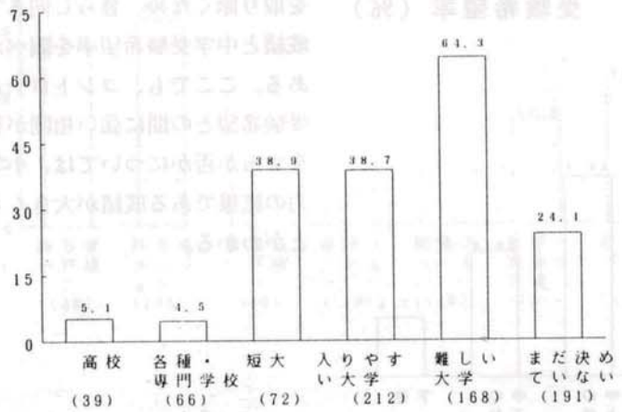
| | 1．受験する | 2．まだ決めていない | 3．受験しない |
|---|---|---|---|
| (1)上位・成績上位（64） | 78.1 | 9.4 | 12.5 |
| (2)上位・成績中の上位（87） | 55.2 | 8.0 | 36.8 |
| (3)上位・成績中の中位（82） | 45.1 | 7.3 | 47.6 |
| (4)上位・成績下位（34） | 32.4 | 8.8 | 58.8 |
| (5)中位・成績上位（44） | 63.6 | 9.1 | 27.3 |
| (6)中位・成績中の上位（100） | 43.0 | 9.0 | 47.0 |
| (7)中位・成績中の中位（175） | 23.4 | 8.6 | 66.9 |
| (8)中位・成績下位（75） | 9.3 | 6.7 | 80.0 |
| (9)下位・成績上位（9） | 55.6 | 0.0 | 44.4 |
| (10)下位・成績中の上位（21） | 28.6 | 9.5 | 61.9 |
| (11)下位・成績中の中位（40） | 22.5 | 2.5 | 72.5 |
| (12)下位・成績下位（43） | 7.0 | 4.7 | 88.4 |

## 9．進路希望段階と中学受験

次に、これは正しくは業績原理にかかわる要因とは言えないのであるが、属性原理的ではないことがら、すなわち母親の気持ちについて見てみよう。具体的には、「子どもをどの段階まで進学させたいか」、あるいは「どんなところに進学させたいか」という、進学希望段階と中学受験希望との関係について見てみよう。

図4-10で、高校や各種・専門学校と答えた母親は、ほとんど中学受験を考えていない。そして、多かったのは難しい大学と答えた母親たちで64.3%と3分の2近くが子どもを受験させようと考えている。中学受験をさせるか否かは進学段階やどんな大学に進学させるか（どんな学校歴を身につけさせるか）ということと強いかかわりのあることがわかる。

＜図4－10＞　進学希望段階別に見た中学受験希望率（%）






## 10．母親の教育観と中学受験（1）

次に母親の教育観に焦点を当て、母親の気持ちと中学受験との関連を見てみよう。

表4－7は既に他の章で見た母親の教育観にかかわる質問を因子分析にかけた結果である。われわれは表に示されたように4つの因子を析出した。これらの因子は、母親が教育について考える時に4つの気持ちから考えていることを示している。

それぞれの因子の意味を特徴づける項目は表にあるとおりであるが、要約すると次のようになる。

第1の因子は受験志向因子。子どもを受験社会で勝利させようとする気持ちである。第2の因子は別学志向因子。子どもを男女別の学校に入れたいという気持ちである。第3の因子は学歴・金銭信仰因子。学歴やお金がものをいう世の中なのだという気持ちである。最後に第4の因子は性別役割信仰因子。男は男らしく、女は女らしく育てるべきだと信じる気持ちである。

4つの因子の中で、受験志向と学歴・金銭信仰が別の因子（気持ち）として析出されたことは興味深い。母親達は学歴・金銭信仰の有無にかかわらず受験を志向したり、あるいはしなかったりしているというのである。

＜表4－7＞　母親の教育観の4つの因子

| 受験志向 | | 男女別学志向 | | 学歴・金銭信仰 | | 性別役割信仰 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| わが子には受験戦争を勝ち抜いてほしい | .65018 | 女の子は、女子校に行ったほうがよい教育が受けられる | .84580 | 今の世の中はお金がものをいう世の中だ | .51204 | 男は男らしく、女は女らしく教育すべきだ | .59294 |
| 子どもは一流大学に入れたい | .65130 | 男の子は、男子校に行ったほうがよい教育が受けられる | .80422 | 今の教育には、お金がかかりすぎる | .47973 | 女性はやはり家庭にいるべきだ | .59242 |
| 多少無理をしても、子どもの教育にはお金をかけたい | .55164 | | | 今の子どもたちの方が自分の学生時代の頃よりも、受験戦争は厳しい | .46732 | | |
| 小学校の勉強だけではものたりない | .52601 | | | | | | |
| 子どもには一流でなくても、少しでもよい高校や大学に入れたい | .51368 | | | 今の日本は実力よりも学歴を重んじる社会だ | .46000 | | |
| 親がしっかりしていないと、子どもは受験戦争に勝てない | .51210 | | | 受験戦争は今後、ますます厳しくなるだろう | .39586 | | |
| 周囲が受験に力を入れている以上、我が家も力をいれざるをえない | .49691 | | | 今の子どもには、子どもらしさが失われていると思う | .39297 | | |

（注）数値は大きいほどその質問項目が因子の意味を特徴づける程度が大きいことを示している。

## 11. 母親の教育観と中学受験（２）

表４－８～４－11は、表側の①～⑳の母親の教育観についての各質問について、「１．とてもそう思う」、「２．まあそう思う」、「３．あまりそう思わない」、「４．まったくそう思わない」と答えた母親たちがそれぞれどのくらい中学受験をさせようと考えているか示したものである。例えば表４－８の「②子どもは一流大学に入れたい」という質問に「１．とてもそう思う」と答えた母親の58.6％が子どもを受験させたい、「２．まあそう思う」と答えた母親の40.7％が子どもを受験させたいと考えていることになる。

さて、表４－８は、母親の教育観のうちの受験志向因子を特徴づけていた質問への答えと中学受験希望率を見たものである。不等号が示すように受験志向の強い母親ほど子どもに中学受験をさせようと考えている。同様なことは表４－９で別学志向因子についても言える。別学志向の強い母親ほど、子どもに中学を受けさせようとしている。

＜表４－８＞　母親の教育観別中学受験希望率(1)―受験志向因子（％）

| | 1.とてもそう思う | | 2.まあそう思う | | 3.あまりそう思わない | | 4.まったくそう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①わが子には受験戦争を勝ち抜いてほしい | 53.8 | ＞ | 35.5 | ＞ | 21.4 | ＞ | 18.2 |
| ②子どもは一流大学に入れたい | 58.6 | ＞ | 40.7 | ＞ | 28.4 | ＞ | 13.2 |
| ③多少無理しても、子どもの教育にはお金をかけたい | 65.6 | ＞ | 42.8 | ＞ | 20.8 | ＞ | 15.4 |
| ④小学校の勉強だけではものたりない | 61.4 | ＞ | 46.8 | ＞ | 28.3 | ＞ | 17.9 |
| ⑤子どもには一流ではなくても、少しでもよい高校や大学に入れたい | 46.7 | ＞ | 33.3 | ＞ | 25.5 | ＞ | 20.0 |
| ⑥親がしっかりしていないと、子どもは受験戦争には勝てない | 59.3 | ＞ | 41.0 | ＞ | 25.7 | ＞ | 17.4 |
| ⑦周囲が受験に力を入れている以上、我が家も力えいれざるをえない | 58.3 | ＞ | 40.9 | ＞ | 30.2 | ＞ | 26.4 |

（注）表４－８～表４－11で不等号は５ポイント以上の差があることを示す



これに対して、表４－10の学歴・金銭信仰因子では、学歴・金銭信仰の強さと中学受験をさせるか否かとは、明確な相関を見出すことはできなかった。学歴やお金が幅をきかせる世の中だと思ったとしても、それは中学受験には結びつかないということである。

最後に表４－11で、性別役割信仰については「１．とてもそう思う」と考えた母親は中学受験を考えている割合が大きい。ただし、「２．まあそう思う」以下「４．まったくそう思わない」までの問には明確な差異はない。

＜表４－９＞　母親の教育観別中学受験希望率(2)―別学志向因子（％）

| | 1.とてもそう思う | | 2.まあそう思う | | 3.あまりそう思わない | | 4.まったくそう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑧女の子は、女子校に行ったほうがよい教育が受けられる | 63.0 | ＞ | 55.7 | ＞ | 37.5 | ＞ | 23.9 |
| ⑨男の子は、男子校に行ったほうがよい教育が受けられる | 65.2 | ＞ | 58.3 | ＞ | 37.4 | ＞ | 23.5 |

＜表４－10＞　母親の教育観別中学受験希望率(3)―学歴・金銭信仰因子

| | 1.とてもそう思う | | 2.まあそう思う | | 3.あまりそう思わない | | 4.まったくそう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑩今の日本はお金がものをいう世の中だ | 30.2 | ＞ | 35.7 | ＞ | 49.2 | | 50.0 |
| ⑪今の教育には、お金がかかりすぎる | 38.3 | ． | 35.7 | ＞ | 26.5 | ＜ | 60.0 |
| ⑫今の子どもたちの方が自分たちの学生時代の頃よりも受験戦争は厳しい | 37.7 | | 35.2 | ＞ | 27.1 | ＜ | 41.7 |
| ⑬今の日本は、実力よりも学歴を重んじる社会だ | 31.4 | ＜ | 36.6 | ＜ | 48.2 | ＞ | 23.1 |
| ⑭受験戦争は、今後、ますます厳しくなるだろう | 39.3 | | 39.7 | ＞ | 24.5 | ＞ | 16.7 |
| ⑮今の子どもには子どもらしさが失われていると思う | 30.6 | | 33.7 | ＜ | 46.2 | ＞ | 28.2 |

＜表４－11＞　母親の教育観別中学受験希望率(4)―性別役割信仰因子

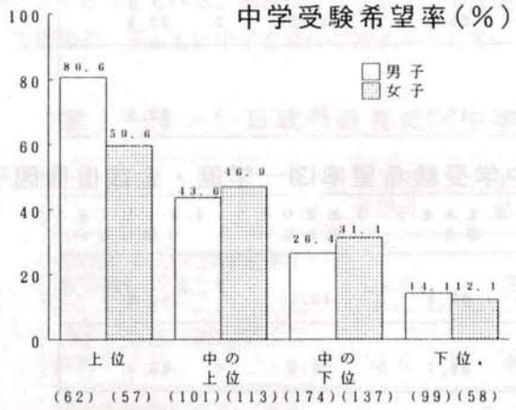
| | 1.とてもそう思う | | 2.まあそう思う | | 3.あまりそう思わない | | 4.まったくそう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑯男は男らしく、女は女らしく教育すべきだ | 47.2 | ＞ | 31.6 | | 35.0 | | 38.2 |
| ⑰女性はやはり家庭にいるべきだ | 51.9 | ＞ | 33.1 | | 35.9 | | 34.3 |

## 12. 性別と中学受験

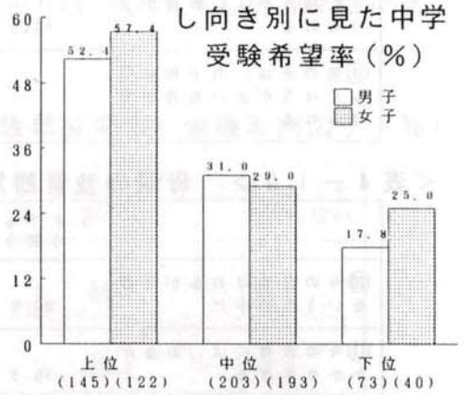
ここで、属性原理にもどって、性別と中学受験の関係を見てみよう。まず、図4－11は、性別と成績別に母親の中学受験希望率を見たものであるが、成績が中の上位や中の下位では女子の母親のほうが受験を考える割合が少し高い。これに対して成績上位では男子の母親の80.6%に対して女子の母親は59.6%しかなく、男子の母親のほうが21ポイントも受験希望率が高い。男子の成績上位者にとって、中学受験はあたりまえのことになっている。

次に、性別と暮らし向き別では、図4－12のように上位で女子の母親のほうが受験希望率が高いが、その差は小さい。

＜図4－11＞　性別と成績別に見た中学受験希望率(%)

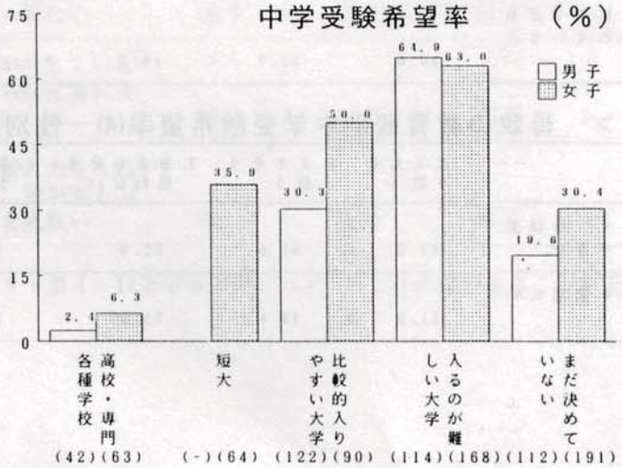



＜図4－12＞　性別と暮らし向き別に見た中学受験希望率(%)




最後に、性別と進学希望段階別に中学受験希望率を見ると、図4－13のように、男女とも受験希望率が最も高いのは「入るのが難しい大学」で6割強となっている。しかし、女子の母親では「比較的入りやすい大学」についても5割が娘を中学受験させようとしている。女子の場合、私立や国立は難しい大学だけでなく、易しい大学へ進学するルートとしても位置付けられている。

＜図4－13＞　性別と進学希望段階別に見た中学受験希望率　(%)






## 13. どの要因が中学受験を強く規定するか

これまで中学受験をするか否かを規定する要因として、暮らし向き、親の職業、親の学校歴・学歴、住居形態、本人の性別（以上属性原理にかかわる要因）、学業成績（業績原理にかかわる要因）、そして親の教育観、進学希望などを見てきた。そして、それらのいずれもが中学受験と強い相関のあることがわかった。

次に、それではそれらの各要因は、どれがどのくらい強く中学受験をするか否かを規定しているのか、多変量解析の手法の一つである林の数量化理論第2類という方法を用いて、要因間の規定力の比較をしてみよう。

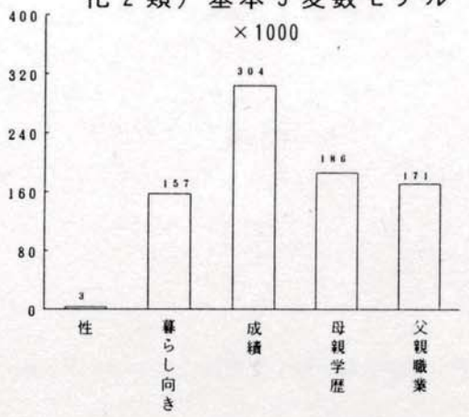
図4－14は「性」、「暮らし向き」、「成績」、「母親学歴」、「父親職業」の5つの要因を抜き出し、それぞれの規定力の強さを比較したものである。数字は偏相関係数といって、5つの変数で規定力を調べた時の各変数の規定力の強さを示しており、数値が大きいほどその変数の規定力は大きい。

さて、図を見ると、「成績」が 304で断然規定力が大きい。中学受験では業績原理が強く働いていると言うことができる。続いて「母親学歴」、「父親職業」、「暮らし向き」がほぼ同じ値で並んでいる。そして、「性」は中学受験をするか否かにはほとんど影響を与えていない。

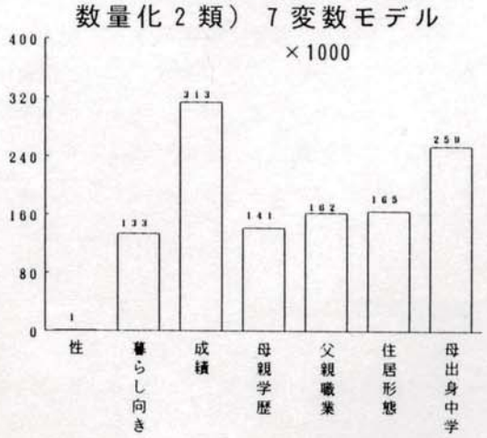
次に、図4－15は先ほどの5変数に「住居形態」、「母親出身中学」の2変数を加えた拡張モデルを使って、7変数間の規定力の比較を行った結果である。

分析の結果を見ると、2変数を加えたことで基本の5変数の偏相関係数の値に変化が起きている。これは、2変数を加えたことにより、それまでの見せかけの規定力が減じられたり、あるいは逆に見過ごされていた規定力に光が当てられた結果である。ただし、図4－15を見ると「成績」の規定力が依然として非常に強く、「性」の規定力は弱い。また、新しく加えた2変数のうち「母親出身中学」が 259と大きな値になっており、「母親学歴」よりも規定力が強いことがわかる。

＜図4－14＞
中学受験の規定要因（林の数量化2類）基本5変数モデル

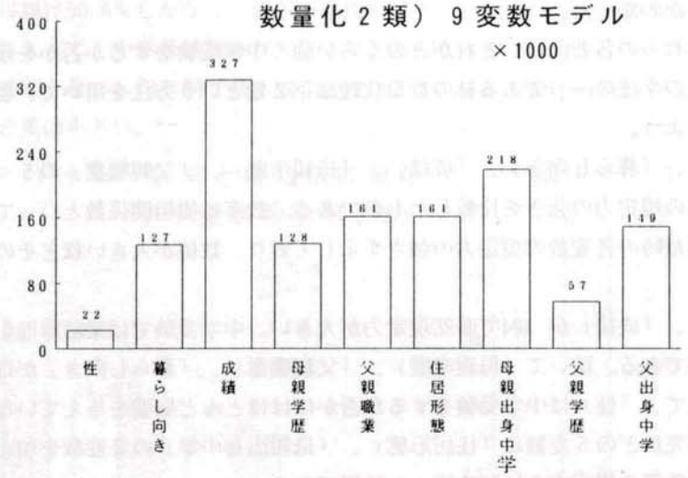



＜図4－15＞
中学受験の規定要因（林の数量化2類）7変数モデル



続いて、図４－16は上述の７変数に「父親学歴」と「父親出身中学」の２変数を加えて解析を行った結果である。「父親学歴」は「母親学歴」よりも規定力が弱く、「父親出身中学」も「母親出身中学」よりも規定力が弱いことがわかる。中学受験をするか否かは、父親よりも母親の学歴・学校歴のほうが影響するようだ。

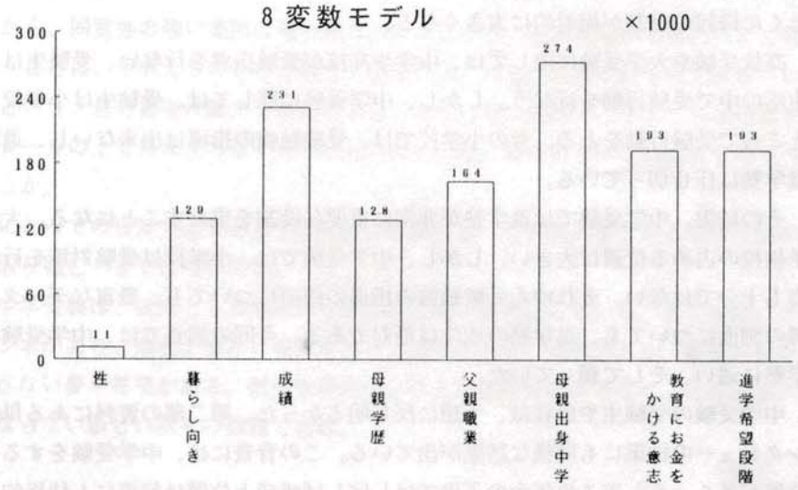
＜図４－１６＞　中学受験の規定要因（林の数量化２類）９変数モデル






## 14. 母親の意識の規定力

図４－17は、「性」、「暮らし向き」、「成績」、「母親学歴」、「父親職業」の基本５変数に、「母親出身中学」、「教育にお金をかける意志」、「進学希望段階」の３変数を加えた８変数で解析を行った結果である。

母親の意識である「教育にお金をかける意志」、「進学希望段階」の２変数ともに 193と強い規定力を持っていることがわかる。母親の意識の規定力の強さがうかがえる。また、２変数を加えたことにより、「成績」の規定力は 231と小さくなり、「母親出身中学」が 274とトップになった。

＜図４－１７＞　中学受験の規定要因（林の数量化２類）８変数モデル